

金子 拓也さん

1. はじめに

私の合格までの道のりは、本当に長く険しい道のりでした。

環境面では、仕事が非常に忙しく学習時間が全く取れない時期が続いたり、学習面では、なかなか結果が出ずに何をしたら合格できるのか分からず大きな壁にぶつかったりなど本当に多くの困難がありました。

これら多くの困難を打開し合格できたのは、MMCでの学習のお陰です。

現在、私と同じような状況の方も多いのではないかと思います。

多くの受験生にとって私の合格体験記が少しでもお役に立てば幸いです。

2. 中小企業診断士を受験した動機について

私は学生時代、部活動を優先し勉強を疎かにしてきました。

そして、そのまま社会人になり何気ない日々を過ごしておりました。

しかし、仕事での大きな環境変化をきっかけに「このまま年齢を重ねては何も残らないのではないか、大きくスキルアップする必要があるのではないか」と考えるようになり、仕事をする上で役に立つ国家資格を取得しようと考え、幅広く専門的な知識の習得ができる中小企業診断士の受験を決意致しました。

3. 受験経歴

① 1次試験

受験回数 6回（内、合格回数 2回、受験年度 平成 21～27年度）

② 2次試験

受験回数 4回（受験年度 平成 24、25、27、28年度）

4. MMCを選択した理由等

① MMCを選択した理由

第一の理由は、他の予備校と比較して非常に高い合格率を誇っている点です。

合格者数については、受験者数が多い予備校であれば比例して多くなるといえますので合格者数が多くてもあまり参考にならないと思います。

高い合格率は、本当に重要な選択理由となりました。

第二の理由は、合格するための最善の体制が構築されている点です。

高い合格率を裏付ける理にかなった解答メソッド、診断士の実務に直結した講義内容、答練の当日採点と個別のアドバイス付き答案返却、生徒ファーストの熱意ある講師陣など合格するために本当に素晴らしい最善の体制が構築されています。

② MMCを選択して良かった点

通いなれた学校や今までの学習方法を変更するのは非常に勇気のいることでしたが、結果的にMMCを選択して本当に大正解だったと思います。

私は、以前、他の予備校に通学しておりましたが、2次試験の学習に関しては成績優秀者へのフォローを厚くしているため一部の人間しか理解できないような講義内容で合格までの道のりが全く見えませんでした。

MMCでの学習では、標準化された合格のための理にかなった解答メソッド、過去問分析などにより合格までの道のりがハッキリ見え、スキルが向上しました。

また、診断士実務に直結した講義内容により知識の活用スキルも向上し、現状の仕事でも多くの場面で知識の活用ができるようになりました。

5. 1次試験対策の学習方法

中小企業診断士の学習は、興味深い内容が多いため出題範囲、頻出論点以外の学習を行って無駄な時間を過ごさないよう注意すべきだと思います。

また、1次試験は出題範囲が非常に広く難問も出題されるため、やさしい問題と難問の見極め、頻出論点や取り所で確実に正解するなどのスキルが必要になりますので、過去問中心の学習を行うことが合格のための効率の良い学習方法だと思います。

具体的には、①過去問から頻出論点、傾向などを分析、②頻出論点を中心にテキストを短期間で確認（全体像を把握）、③再度過去問を解き不明点などをテキストで確認、④過去問を繰り返し解く、以上により合格のための効率の良い学習ができると思います。

過去問を解く際には、カテゴリ別にまとめられた市販の過去問を活用して繰り返し解くことを行いました。

過去問を繰り返し解くと正解を暗記してしまうことになるとは思いますが、正解することを目的とせず頻出論点の理解度向上を目的として、選択肢ごとになぜ正解なのか、なぜ不正解なのかを考えることを繰り返し行いました。

6. 2次試験対策の学習方法

①全体の学習方法について

合格するためには、大きく2つの重要な点があると思います。

1つは、解答を導き出すための論理的思考能力を身に付けること。もう1つは、他の受験者との差別化を図るための解答記述力を身に付けること、の2つです。

具体的には、①出題者が何を解答して欲しいのかの把握、②正しい解答根拠（与件）の抽出、③解答の作成、などの解答ロジック（論理的思考能力）を身に付けること、④他の受験者との差別化を行うための武器・技術を身に付けることです。

上記については、MMCの『診断実務と2次試験および合格の鉄則、合格の武器、事例の体系と解法の具体的技術』で学習し、過去問、演習、模試により身に付けることができました。

過去問については、繰り返し解いて設問から与件の抽出方法を分析（因果関係分析）することで論理的思考能力を身に付け、設問に対して正しいロジックで解答を導き出せるようになるために活用しました。

演習では、講義で学習した技術などを身に付け、どんな問題でも使いこなせるようになるために活用しました。

模試では、本試験で全ての事例に対して冷静に対応できるようになるため、常に本番を

意識して本試験を想定した本番同様のルーティンを実践しました。

②事例Ⅰの学習方法について

事例Ⅰについては、何を問われているのか、何を解答すれば良いのか分からず苦手意識を持たれている方や不得意な方も多いと思います。

私も同様の思いを持っていましたが、MMCの講義、演習、模試を通して何を解答すべきか明確になりました。

組織とは何か、人事とは何か、事業展開とは何かなど事例Ⅰの特徴が理解でき、何を解答すれば良いのか明確になったため不得意科目から安定して高得点を獲得できる科目にすることができました。

MMCの過去問分析を基に自分なりにしっかりと過去問を解釈すること、演習、模試を通じて解法の技術を身に付けることが重要だと思います。

③事例Ⅱの学習方法について

事例Ⅱについては、最も苦手な科目で過去3回の受験では「D・D・C評価」でしたがMMCの過去問分析と解法の技術などにより何を解答すべきか明確になりました。

演習で解法の技術を身に付け、更に、過去問を繰り返し解き解法の技術を使いこなせるようになることで、苦手意識がなくなり合格レベルに達することができました。

過去問を繰り返し解くことで、正確な論理的思考能力が身に付き、設問と与件の対応付けなどへの対応力が向上しました。

④事例Ⅲの学習方法について

事例Ⅲについては、MMCの解法の技術などにより安定して合格レベルを維持できる科目にすることができました。

MMCの過去問分析、講義による知識向上、解法の技術などにより、安定的に成果が出せる科目になり、他受験者との差別化もできるようになると思います。

事例Ⅱ同様、演習で解法の技術を身に付け、更に、過去問を繰り返し解き解法の技術を使いこなせるようになることが重要だと思います。

⑤事例Ⅳの学習方法について

事例Ⅳについては、MMCのカリキュラム（講義、演習、模試、計算問題）を、繰り返し学習するだけでかなりの実力がつきました。

更に、事例Ⅳでは難問（後回しにする問題）と取るべき問題の見極めが他の事例に比べて非常に重要になりますので、過去問を繰り返し解き実際の問題に慣れることで問題の見極め力を向上させました。

7. 2次試験合格のための留意点

本試験当日は、緊張状態の中でもできる限り平常心になることが重要になります。

冷静に平常心を保つためには、どんな問題が出題されてもMMCメソッドを使いこなせるようになる必要があります。そのためには、日頃から論理的思考能力と解法の技術の習

得、本試験を常に意識するなど留意して取り組みました。

演習では、解法の技術を身に付けることを目的として点数や順位に一喜一憂せず、模試では、本試験に対する自信をつけるため順位にこだわりを持つことに留意しました。(MMCの模試で上位10%以内に入ればかなり自信になります)

本試験は第5回模試という意識で取り組みました。

また、モチベーションアップのために勉強仲間は貴重な存在だと思いますが、講義後のインフォーマルな勉強会は不要だと思います。

理由は、論理的思考能力と解法の技術の習得については個人ごとに違いますし、他人の意見によるバイアスがかかるためです。勉強会に集まる時間や会場確保などの労力を考えれば、その時間と労力を1事例でも多く解くことに使った方が良いと思います。

MMCと自分を信じ、合格するために何をすれば良いのかを常に考えながら頑張ることが本当に重要だと思います。

8. 最後に

合格までの道のりは本当に厳しく、様々な困難の連続でしたが諦めずに頑張って本当によかったと思います。

私が合格できたのは、本当にMMCの先生方のお陰です。

MMCの先生方の講義は、本当に素晴らしく目から鱗の連続でした。

中でも、事例Ⅰの「組織は戦略に従う。」については、最も印象に残っている素晴らしい講義の一つです。

また、MMCの先生方の生徒一人ひとりに対する心配りや励まし、熱意のお陰で最後まで諦めずに頑張ることができました。

本当に、ありがとうございました！！！！

以上